

SPECIAL

消化器内科
医長

くどう たかひこ
工藤 俊彦



～新しいテクノロジー～

大腸CT検査(CTコロノグラフィ)のご案内

◆大腸CT検査とは

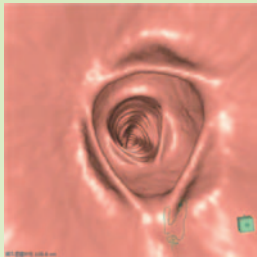


図1 仮想大腸内視鏡画像

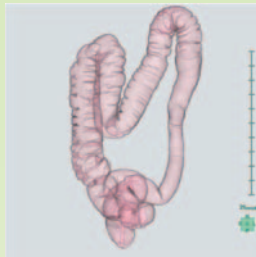


図2 仮想注腸X線画像

大腸CT検査(別名:CTコロノグラフィ)とは、肛門から大腸内へ炭酸ガスを注入したうえでCTを撮影し、得られた画像データを三次元処理することで、まるで大腸内視鏡検査で大腸内を覗いているかのような画像(図1)や、注腸X線写真のような画像(図2)を構築し、大腸病変の検出を行う新しい検査法です。大腸内視鏡検査や注腸X線検査に比べ前処置の負担や検査時の苦痛が少なく、検査時間も10分～15分程度と短時間であるため、欧米ではすでにこの大腸CT検査が一般的に行われております。日本国内でも日本人の大腸癌罹患率、死亡率の急増とともに、大腸CT検査への関心が急速に高まってきていることを受け、当院でも2012年9月から検査開始となりました。

◆検査の流れ

前処置	検査準備	CT撮影	終了
検査前日は昼食・夕食に検査食を食べた後、少量の造影剤を飲んでいただきます。寝る前と翌朝には下剤を飲用しますが、内視鏡検査の前処置よりも身体への負担の少ない前処置となっています。	検査着に着替えていただき、CTの検査台に横になります。続いて、細いチューブを数センチ肛門から挿入し、炭酸ガス送気装置から炭酸ガスを注入して大腸を拡張させます(写真1)。	大腸が十分に拡張したら、うつ伏せと仰向けの2種類の撮影を行います。息止めの合図に合わせて1回につき10秒程度の撮影です。	検査中はお腹が張った感じがありますが、炭酸ガスは速やかに体内に吸収されるので、検査後の膨満感や腹痛はほとんどありません。得られた画像データを再構築し、詳細に検討いたします(図3)。

◆大腸CT検査の長所と短所

- 【長所】** (1) 従来の大腸検査に比べて、安全かつ短時間で苦痛が少ない
 (2) 大きさ5mm以上の病変に対して高い診断能を有している
 (3) ご高齢の方や合併症により内視鏡検査が困難な方にも施行可能
 (4) 腸の癒着や大腸狭窄などにより大腸内視鏡の挿入が困難な方にも施行可能
- 【短所】** (1) 大腸CT検査では病変の組織を採取することができませんので、大腸病変を指摘された際には、大腸内視鏡検査が必要で
 (2) 5mm以下の小さな病変は診断が難しい
 (3) 最新のマルチスライスCTによる低線量の撮影ではありますが、妊娠の可能性がある方は検査を受けることができません



写真1

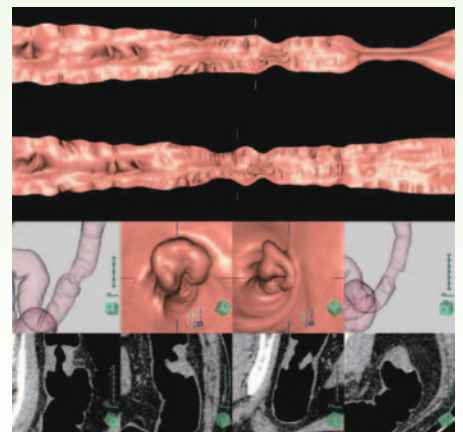


図3

◆ご紹介をお待ちしております

大腸CT検査は、身体への負担が非常に少ない検査であり、かつ高い診断精度も有するという、極めて有用な大腸検査法です。

当院では、消化器内科が窓口となり大腸CT検査の予約を承っております。検査室では画像センター看護師、放射線技師が、検査を安全に遂行するため万全の態勢で対応いたします。また、得られた画像データは放射線診断医が詳細に読影診断した後、大腸CT検査に関するスタッフ全員が参加するカンファレンスで二重チェックを行っております。

当院のスタッフが一丸となって推進している大腸CT検査を、地域の先生方とともに一人でも多くの患者様に広げていきたいと考えております。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。